

**平成30年度  
全国学力・学習状況調査結果**

**熊本県教育委員会**

# I - 1 (1) 教科に関する調査 (県全体)

【小学校】					
	国語		算数		理科
	A	B	A	B	
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
熊本県	71	56	64	51	62

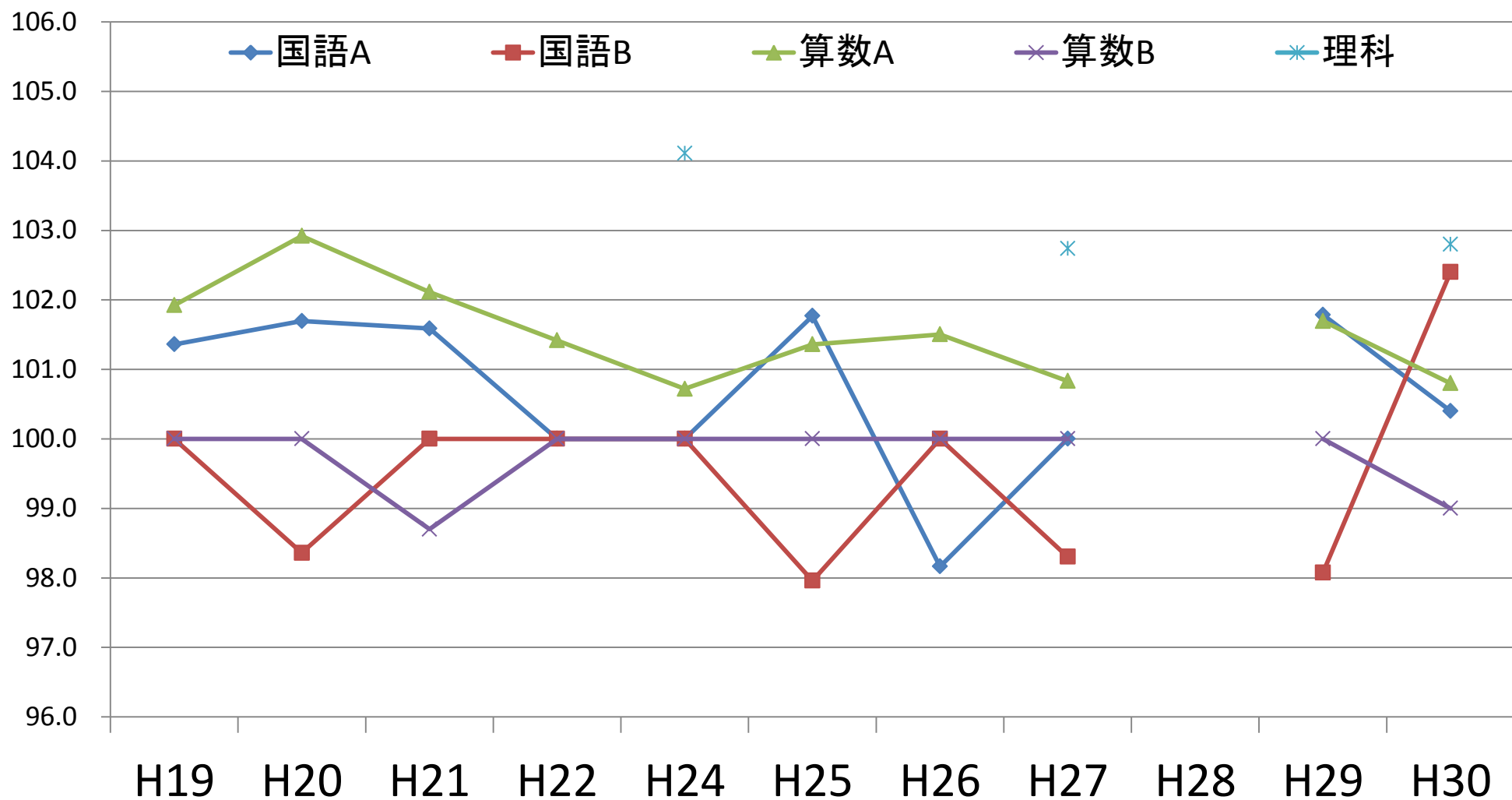
【中学校】					
	国語		数学		理科
	A	B	A	B	
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
熊本県	75	59	65	46	66

- 教科に関する本県の概要は、全体的に全国平均と同程度の状況にあります。
- 小学校では、国語B、理科が全国平均を上回っていますが、算数Bは全国平均をやや下回っています。国語A、算数Aは全国平均と同程度の状況にあります。
- 中学校では、理科は全国平均と同程度の状況にありますが、国語A・B、数学A・Bで、全国平均をやや下回っています。

# 1-1 (2) 教科に関する調査 (各管内等)

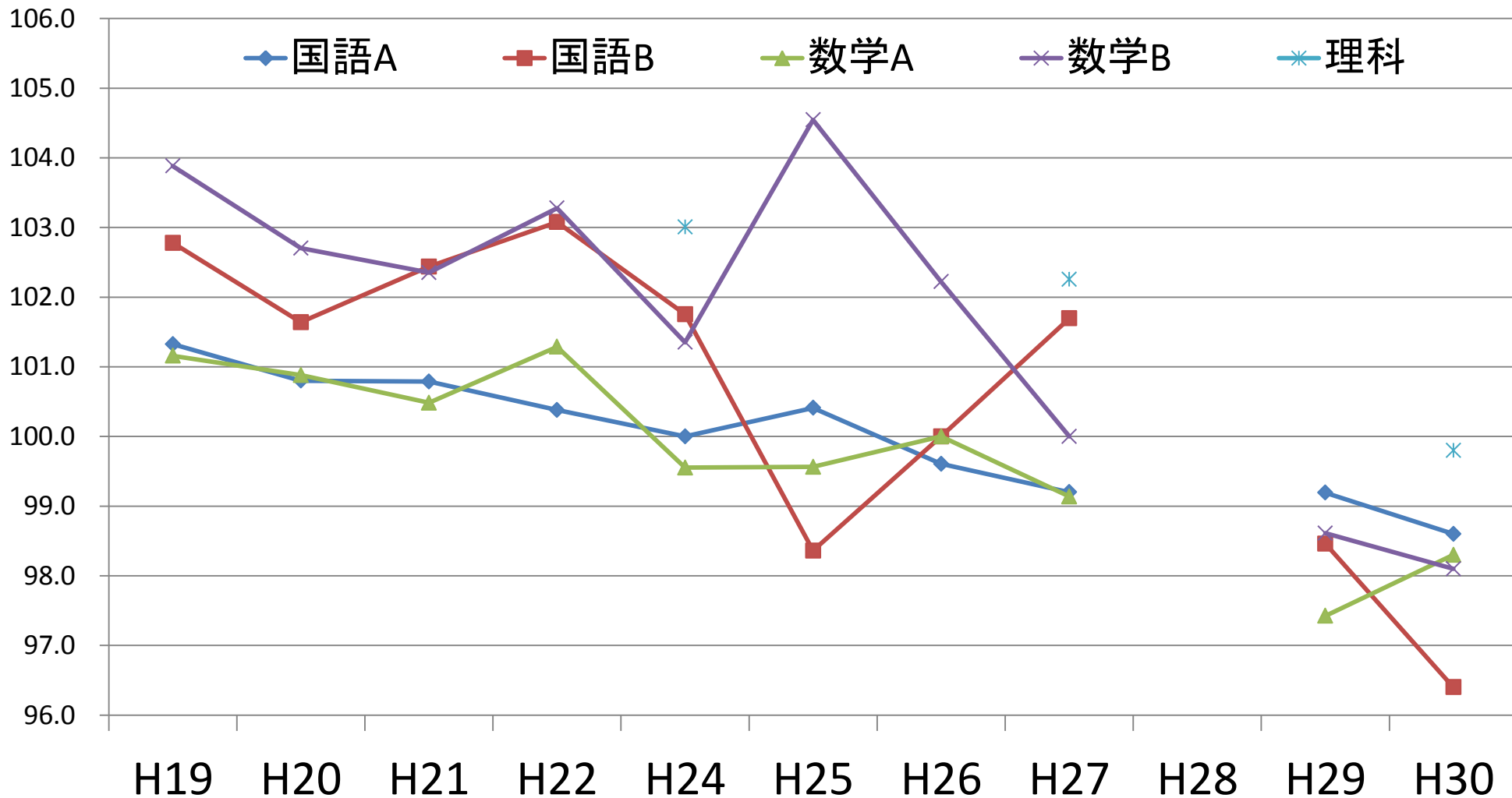
	【小学校】					【中学校】				
	国語		算数		理科	国語		数学		理科
	A	B	A	B		A	B	A	B	
全国平均	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
県平均	71	56	64	51	62	75	59	65	46	66
宇城	72	57	66	53	61	73	58	66	44	65
玉名	72	54	63	50	61	72	56	61	41	62
菊池	70	57	64	51	63	74	59	63	46	66
阿蘇	71	56	65	51	65	76	61	64	46	68
上益城	69	53	63	48	60	75	59	64	46	66
八代	71	55	65	50	63	73	58	62	42	63
芦北	69	53	62	46	62	76	60	64	44	66
球磨	73	55	64	50	61	73	57	63	42	65
天草	72	57	66	52	62	76	59	64	45	66
山鹿市	75	57	67	52	66	76	60	64	44	65
熊本市	70	56	63	51	62	76	60	66	47	67

# I - 2 (1) 教科に関する調査 (過去の推移 小学校)



小学校の経年比較(全国平均を100としたときの県の推移)

# I - 2 (2) 教科に関する調査 (過去の推移 中学校)



中学校の経年比較(全国平均を100としたときの県の推移)

# I - 3 児童生徒質問紙調査

熊本県の児童生徒は、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」「朝食を毎日食べていますか」などの項目で、全国平均を上回る状況にあります。しかし、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」などの項目では、全国平均を下回っています。

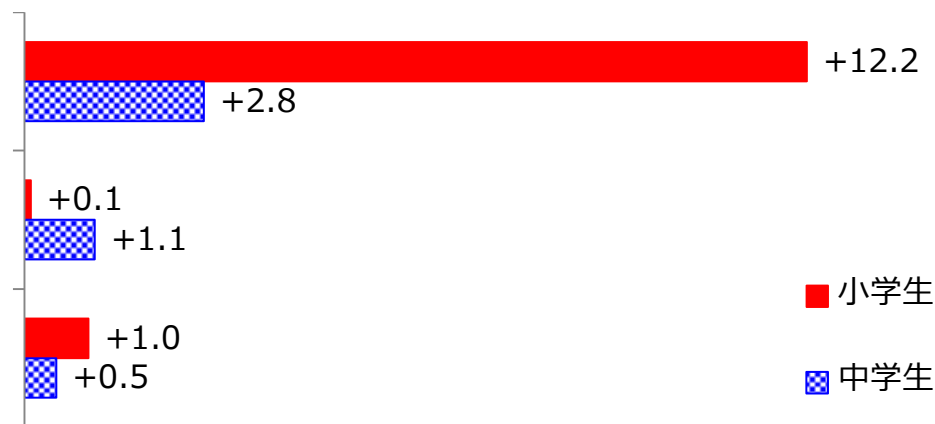
本県と全国との差が大きかった3項目

## 全国平均との差

○ 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか  
（「参加したことがある」）

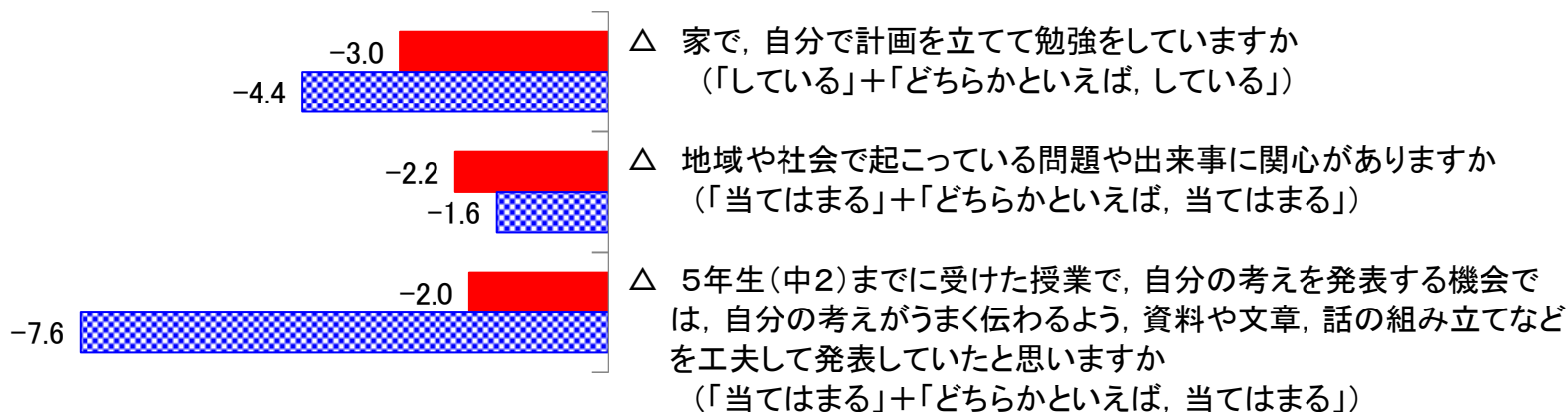
○ 朝食を毎日食べていますか  
（「している」+「どちらかといえば、している」）

○ 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか  
（「している」+「どちらかといえば、している」）



■ 小学生

■ 中学生



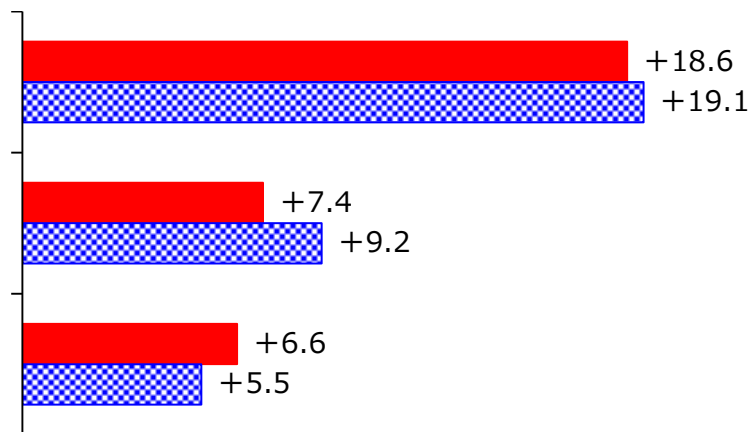
# I - 4 学校質問紙調査

熊本県の小中学校は、「ICTの活用」「保護者や地域の人との協働による活動」などの項目で、全国に比べ、実施回数が多い状況にあります。しかし、「ボランティア等による授業サポート」「全国学力・学習状況調査の自校の結果の公表や説明」などの項目では、全国平均を下回っています。

本県と全国との差が大きかった3項目

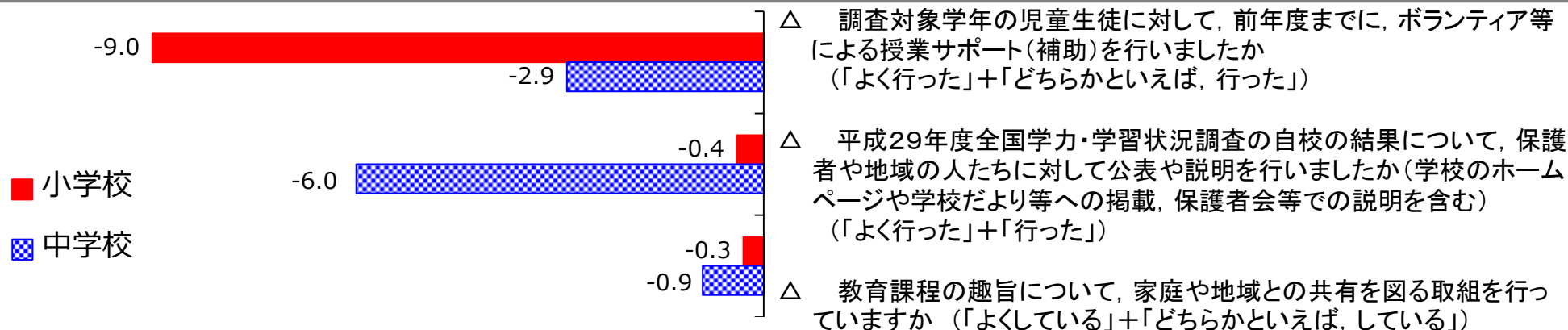
## 全国平均との差

○ 調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板等)等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか(「ほぼ毎日」+「週1回以上」)



○ 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか(「よく行った」+「どちらかといえば、行った」)

○ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか(「よく行った」+「どちらかといえば、行った」)



### Ⅱ－1 小学校国語

- (1) 成果と課題
- (2) 成果が見られた問題
- (3) 課題が見られた問題の分析
- (4) 今後の指導に当たって



# Ⅱ-1 (1) 成果と課題

## 成果

## 小学校国語

## 課題

### 成果が見られた内容

- 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うこと。  
【関連問題 A6】  
本県91.2%, 全国90.4% 差+0.8
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。  
【関連問題 A8才】  
(せつ極的) (積極的)  
本県52.8%, 全国51.4% 差+1.4
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。  
【関連問題 B1三】  
本県38.6%, 全国33.8% 差+4.8
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくこと。  
【関連問題 B3二】  
本県55.5%, 全国52.3% 差+3.2

### 課題が見られた内容

- 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えること。  
【関連問題 A2】  
本県72.7%, 全国73.8% 差-1.1
- 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと。  
【関連問題 A5】  
本県33.8%, 全国35.5% 差-1.7
- 計画的に話し合うために、司会の役割について捉えること。  
【関連問題 B1二】  
本県76.7%, 全国77.5% 差-0.8
- 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えること。  
【関連問題 B2一】  
本県57.3%, 全国57.6% 差-0.3

## 小学校国語

### 成果が見られた問題 1

○ 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うこと。

●A6(本県91.2%, 全国90.4%, +0.8)

- イ 1 オーケストラの演奏をきき、心を打たれる。
- 2 地域の発展のために、長い間、心を打たれる。
- 3 相手に失礼のないように心を打たれる。
- 4 同級生に心を打たれることなく相談する。
- ア 1 一つのこと集中する。
- 2 遠りよする。
- 3 感動する。
- 4 あれこれと心配する。

北村さんは、読んでいた本の中に出てきた表現の意味と使い方をカードにまとめています。北村さんが書いた【カード】の「ア・イ」の中に入る内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

【カード】

心を打たれる

◆意味：  
ア

◆使い方：  
イ

【県学力調査との関連】

○平成29年度第5学年 課題克服プリント  
・「情けは人のためならず」

### 成果が見られた問題 2

○ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

●B1三(本県38.6%, 全国33.8%, +4.8)

金子 田中さんが話したように、ぼくも本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉は確かに多いと思います。

青木 本来の意味とは異なる使い方をしている。田中さんは言っていました。そのような使い方をしても、自分の思いが相手に伝わることはあると思います。

◇司会 金子さんや青木さんは、これから言葉をどのように使っていきたいかについて話していました。みなさんも、そのことについての自分の考えも話してください。

松山

三 松山さんは、【話し合いの様子の一部】のあなたで、松山さんなら、どのような考えを話しますか。その内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

○ 金子さんや青木さんのように、代表で発表した北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、その取り上げたことに対してどう考えるのかを書くこと。

○ ◇司会が話しているように、「これから言葉をもどくように使っていきたいか」について書くこと。

○ 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【県学力調査との関連】

○平成29年度第5学年 1(3) 正答率57.5%  
・話の意図は何か、相手の話の内容を聞き取り、自分の考えと比べ、自分の考えをまとめること。

## 小学校国語

### 課題

- 計画的に話し合うために、司会の役割について考えること。  
【誤答例】「2」と回答しているもの(15.0%)

### 課題となった問題

#### ●B1二(本県76.7%, 全国77.5%, -0.8)

- 二 【話し合いの様子の一部】の司会は——部のように発言することによって、この話し合いの中でどのような役割を果たそうとしていると考えられますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 話し合うことを明確にするために、三人の立場と理由を整理しようとしている。
  - 2 立場を明確にして話し合うために、最もよい考えを選び出すようとしている。
  - 3 活発な話し合いにするために、時間や約束を守るように注意しようとしている。
  - 4 発言回数に気をつけながら、話し合いを計画的に進めようとしている。

4 松山さんの学級では、自分たちの言葉の使い方を見直すために、立場を決めて話し合うことにしました。次は、そのときの【話し合いの様子の一部】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

司会 ここまで代表の人に考えを発表してもらいました。田中さんは、本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉があるから言葉は乱れているという考え、北川さんは、言葉が省略して使われているから言葉は乱れているという考えでした。小池さんは、言葉の使われ方は時代によって変わるものだから、言葉は乱れていないという考えでした。三人の意見について、みなさんはどう考えますか。

### 指導のポイント

- 司会の役割について
  - ・ A 話すこと・聞くことの指導事項「互いの立場や意見をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと」を受けて、「司会の役割として話し合いの観点を整理すること」が必要となる。
- 具体的な指導について
  - ・ 話し合いの議題について児童の発達段階に応じた議題を選定すること。
  - ・ 話し合いの目的として「最もよい意見を選び出すとする」中で「三人の意見について、みなさんはどう思いますか」や「みなさんも、そのことについての自分の考えも話してください」などの司会者が発言した内容に着目すること。
  - ・ 話し合いのあとで、発言の内容や司会者の役割のよかったところなどを振り返り、具体的に司会者、発言者のよかったことについて明らかにすること。

## Ⅱ-1 (4) 今後の指導に当たって

学力調査結果の分析から明らかになった小学校国語科の課題改善のため  
次の点に取り組みましょう。

### 課題が見られた内容

- 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文脈の中で文を正しく書くこと。
- 目的に応じて必要な情報を捉えること。
- 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら構成を工夫し、筋道立てて話すこと。

### 取組

### 授業の中で

- 指導事項を基に、付けたい力を明確にした上で、まとめの場面を設定する。まとめる際には、「ある言葉を必ず使って書く」等の条件付けを行い、どのようにまとめるかを明確にする。
- 「何がよかったのか」等の内容だけでなく、「なぜよかったのか」等の理由についても振り返り、学んだ実感を持たせ、次の学習へとつなぐこと。

### 日々の取組の中で

- 日頃の話し合いにおいて、「考えを一つにまとめる」等の話し合う目的を意識させて、話し合う活動を行う。
- 国語辞典の活用、図書館の有効活用により、質と量の両面からの語彙力の向上を図り、日常的に語彙が豊かになるような環境づくりを行う。

### Ⅱ－２ 小学校算数

- (1) 成果と課題
- (2) 成果が見られた問題
- (3) 課題が見られた問題の分析
- (4) 今後の指導に当たって

## 成果

## 小学校算数

## 課題

### 成果が見られた内容

- 小数の除法の意味について理解すること。  
【関連問題 A2】  
本県41.1%, 全国39.9% 差+1.2
- 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解すること。  
【関連問題 A4(1)】  
本県89.2%, 全国87.8% 差+1.4
- $180^\circ$  や $360^\circ$  を基に分度器を用いて、 $180^\circ$  よりも大きい角の大きさを求めること。  
【関連問題 A5(2)】  
本県61.7%, 全国58.5% 差+3.2
- 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が $360^\circ$  になっていることを記述すること。  
【関連問題 B1(2)】  
本県49.9%, 全国48.2% 差+1.7

### 課題が見られた内容

- 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すこと。  
【関連問題 A1(2)】  
本県64.6%, 全国66.7% 差-2.1
- 直径の長さと同周の長さの関係について理解すること。  
【関連問題 A7(2)】  
本県53.2%, 全国55.6% 差-2.4
- 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすこと。  
【関連問題 B1(1)】  
本県69.9%, 全国71.7% 差-1.8
- 折り紙が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述すること。  
【関連問題 B5(1)】  
本県41.2%, 全国43.2% 差-2.0



## 小学校算数

### 成果が見られた問題 1

○ 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解すること。

●A4(1) (本県89.2%, 全国87.8%, +1.4)

次の表は、シートにすわっている人数とシートの面積を表しています。

すわっている人数とシートの面積

	人数 (人)	面積 (m <sup>2</sup> )
ア	6	4
イ	9	4

上の表から、こみぐあいについてどのようなことがわかりますか。下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 アのほうがこんでいる。
- 2 イのほうがこんでいる。
- 3 どちらもこみぐあいは同じである。

**【県学力調査との関連】**

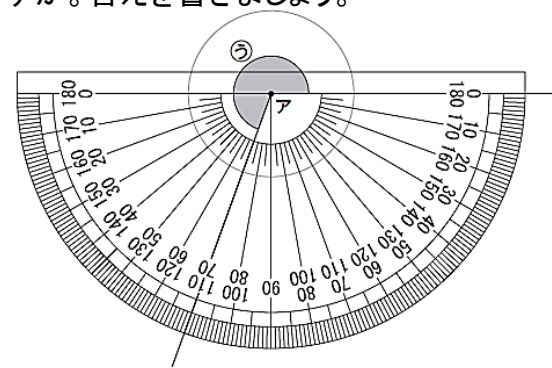
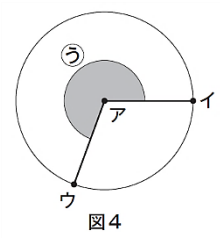
○平成29年度第5学年 6(1) 正答率48.8%  
 ・ 単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解していること。

### 成果が見られた問題 2

○ 180° や360° を基に分度器を用いて、180° よりも大きい角の大きさを求めること。

●A5(2) (本県61.7%, 全国58.5%, +3.2)

下の図4のときの角㊦の角度を、分度器を使ってはかります。角㊦の角度は何度ですか。答えを書きましょう。



**【県学力調査との関連】**

○平成29年度第4学年 5(2) 正答率75.3%  
 ・ 180° よりも大きい角を分度器を使って求めることができること。

## 小学校算数

### 課題

- 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すこと。

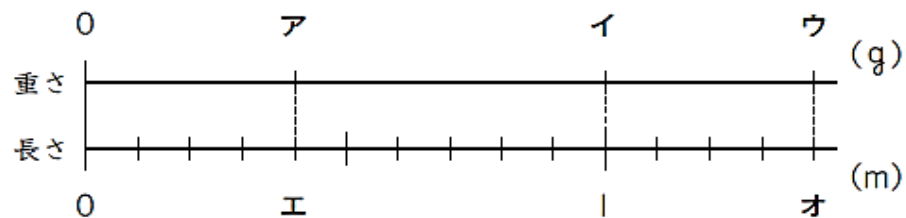
### 課題となった問題

#### ●A1(2)(本県64.6%, 全国66.7%, -2.1)

針金1mの重さが何gになるかを考えます。

1mの重さを□gとして、針金の長さとの関係を下の図に表します。

針金0.4mの「0.4」、0.4mの重さ60gの「60」、1mの重さ□gの「□」のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。アからオまでの中から、あてはまるものを1つずつ選んで、その記号を書きましょう。



#### 【誤答例】

- 「0.4」「60」の場所は、理解しているが「□」の場所を理解していない。(5.2%)

### 指導のポイント

- 誤答について
  - ・「0.4」「60」の場所は、理解しているが「□」の場所を1に当たる大きさとして捉えることができていない児童がいる。
- 指導について
  - ・数直線上の数量の対応関係や大小関係を的確に捉えることができるようにすることが大切である。
  - ・0.4mの重さが60gの針金の1mの重さを求める問題場面において、テープ図と数直線を用いて、0.4mに当たる重さが60gであることなどを確認する活動を設定する。
  - ・その際、長さとの関係を的確に捉えることができるように授業の展開を工夫することが大切である。
  - ・数直線上に1mの針金の長さを表し、1mが0.4mより長いことを確認した後、1mに当たる重さが□gになることを説明し合う活動を設定することが大切である。



## Ⅱ－２（４） 今後の指導に当たって

学力調査結果の分析から明らかになった算数科の課題改善のため  
次の点に取り組みましょう。

### 課題となった内容

- 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すこと。
- 直径の長さと同周の長さの関係について理解すること。
- 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすこと。
- 折り紙が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述すること。

### 取組

### 授業の中で

- 「何を学ぶのか」が分かる「めあて」を提示する。
- 言葉や式、図、表、グラフを用いて表現（説明・記述）する活動を位置付ける。
- 「何を学んだのか」が分かる「まとめ」を提示する。

### 日々の取組の中で

- 授業内容に応じた課題を家庭学習で出し、その取組を確認する。
- 概念や性質の理解に裏付けられた確かな知識及び技能を確実に身に付けるため、適切に、繰り返し学習する機会を設ける。

### Ⅱ－3 小学校理科

- (1) 成果と課題
- (2) 成果が見られた問題
- (3) 課題が見られた問題の分析
- (4) 今後の指導に当たって

## 成果

## 小学校理科

## 課題

### 成果が見られた内容

○腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書くこと。

【関連問題 1(3)】(主として「知識」に関する問題)  
本県83.9%, 全国79.4% 差+4.5

○流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶこと。

【関連問題 2(1)】(主として「知識」に関する問題)  
本県89.4%, 全国83.6% 差+5.8

○ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶこと。

【関連問題 4(1)】(主として「知識」に関する問題)  
本県75.8%, 全国71.1% 差+4.7

○食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶこと。

【関連問題 4(3)】(主として「活用」に関する問題)  
本県46.8%, 全国42.7% 差+4.1

### 課題が見られた内容

○鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶこと。

【関連問題 1((2))】(主として「活用」に関する問題)  
本県75.4%, 全国76.2% 差-0.8

○流れる水の働きによる土地の侵食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶこと。

【関連問題 2(2)】(主として「活用」に関する問題)  
本県55.0%, 全国55.4% 差-0.4

○目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中の光電池の適切な位置や向きを選ぶこと。

【関連問題 3(4)】(主として「活用」に関する問題)  
本県40.3%, 全国41.9% 差-1.6

## 小学校理科

### 成果が見られた問題 1

- 流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶこと。  
(主として「知識」に関する問題)

●2(1) (本県89.4%, 全国83.6%, +5.8)



流れる水の「土や石を積もらせる」はたらきを何といいますか。

- 1 たい積      2 運ぱん      3 しん食

### 成果が見られた問題 2

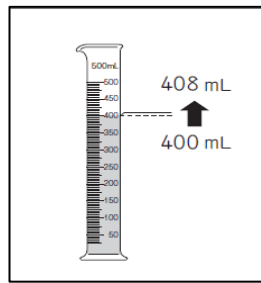
- 食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶこと。(主として「活用」に関する問題)

●4(3) (本県46.8%, 全国42.7%, +4.1)

400mLの水を用意して、12gの食塩をとかすことにしました。



あれ？400 mLの水に食塩を12gとかしたら、できた食塩水は400 mLより多くなるのではないかな？



そこで、できた食塩水の量をメスシリンダーではかってみると、408mLになっていました。このときにできた食塩水の重さはどうなっていますか。

- 1 400gになる。      2 408gになる。
- 3 412gになる。      4 420gになる。

## 小学校理科

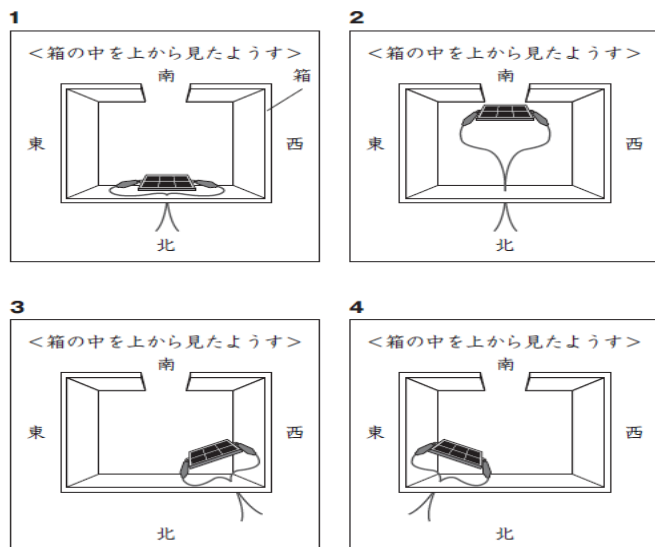
### 課題

- 目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶこと。

### 課題となった問題

● 3(4) (本県40.3%, 全国41.9%, -1.6)

午後1時ごろから午後3時ごろだけプロペラが回るようにするには、箱の中で光電池をどのように置けばよいと考えられますか。



【誤答例】1(20.1%), 2(23.9%), 3(15.5%)

### 指導のポイント

- 誤答について
  - ・ 選択肢1, 2は光電池を南に向けて正午頃に日光が当たる状態であることを示す選択肢であり、目的の時間だけ扇風機を作動させるために適切な位置に光電池を設置できていない。このように解答した児童は、1日の太陽の動きについても十分に理解できていないことが考えられる。
- 指導について
  - ・ これまでの学習内容である「時間経過による太陽の位置や動き」や「光が当たったときに発電する光電池の性質」を適切に活用できるようにする。
  - ・ 光電池を入れる箱の切れ込みの幅、設置する光電池の角度などは、実際につくりながら、試す中で調節が必要である。そのため、「ある時間だけ光電池を発電させる」という目的を設定し、実際の発電状況計測して、繰り返し試しながら光電池の置き方を制御するという学習活動を設定するようにする。

## Ⅱ－3（４） 今後の指導に当たって

学力調査結果の分析から明らかになった理科の課題改善のため  
次の点に取り組みましょう。

### 課題となった内容

- 鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶこと。
- 流れる水の働きによる土地の侵食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶこと。
- 目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶこと。

### 取組

### 授業の中で

- 主体的に追究していくことができるように、意図的な活動の場を工夫する。
- 自分の考えを確かめるための観察や実験の方法を、子どもたち自身に考えさせたり、みんなで検討させたりする。
- 「実験の結果から言えること」だけに言及した内容かどうかについて検討できるようにする。

### 日々の取組の中で

- 地域の自然と触れ合う野外での学習活動や体験活動を取り入れる。
- 理科で学習したことを日常生活との関わりの中で捉え直すことができるようにする。

## Ⅲ－１ 中学校国語

- (1) 成果と課題
- (2) 成果が見られた問題
- (3) 課題が見られた問題の分析
- (4) 今後の指導に当たって



## 成 果

## 中学校国語

## 課 題

### 成果が見られた内容

- 文脈に即して漢字(幕)を書くこと。  
【関連問題 A8－2】  
本県73.2%, 全国72.9% 差+0.3
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。  
【関連問題 A8三ウ】  
・先生が私たちにおっしゃった(敬語)  
本県91.8%, 全国88.0% 差+3.8
- 行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。  
【関連問題 A8五】  
本県59.0%, 全国54.4% 差+4.6
- 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと。  
【関連問題 B1三】  
本県14.6%, 全国13.3% 差+1.3
- 全体と部分の関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すこと。  
【関連問題 B2三】  
本県55.1%, 全国54.6% 差+0.5

### 課題が見られた内容

- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解すること。  
【関連問題 A3二】  
本県79.9%, 全国82.8% 差-2.9
- 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと。  
【関連問題 A8四2】  
本県16.9%, 全国22.3% 差-5.4
- 文章の構成や展開について自分の考えをもつこと。  
【関連問題 B1二】  
本県60.1%, 全国64.3% 差-4.2
- 登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立てること。  
【関連問題 B3二】  
本県64.3%, 全国68.2% 差-3.9



## 中学校国語

### 成果が見られた問題 1

○ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。

- A8三ウ(本県91.8%, 全国88.0%, +3.8)
- 工(本県30.4%, 全国29.2%, +1.2)
- 才(本県64.0%, 全国61.8%, +2.2)

<p>才</p> <p>1 意見の折り合いを たてる</p> <p>2 かける</p> <p>3 つける</p> <p>4 なする。</p>	<p>工</p> <p>1 彼は、 水気 せき 紙</p> <p>2 紙</p> <p>3 紙</p> <p>4 紙</p>	<p>ウ</p> <p>1 先生が私たちに大切なことを 申し上げた</p> <p>2 申した</p> <p>3 お言いました</p> <p>4 おっしゃった。</p>
--	--	---

一 次のアからキの文では、最も適切な言葉を、それぞれ( )の1から4までの中から一つ選びなさい。

#### 【県学力調査との関連】

- 平成28年度第2学年 2(4)正答率90.0%
- ・「見た」を敬語に変える。

### 成果が見られた問題 2

○ 全体と部分の関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すこと。

- B2三(本県55.1%, 全国54.6%, +0.5)

<p>4 聞き手とのやりとりの内容を受けて話の方向を転換し、「資料」の中の③の情報に触れずに発表をまとめる。</p>	<p>3 これまで話してきた内容や聞き手とのやりとりを踏まえずに、「資料」の中の③の情報を使って発表をまとめる。</p>	<p>2 聞き手とのやりとりを通して生まれた新たな考えをもとに、「資料」の中の①と②の情報を使って発表をまとめる。</p>
<p>1 これまで話してきた内容や聞き手とのやりとりを踏まえた上で、「資料」の中の③の情報を取り上げながら発表をまとめる。</p>		

三 山川さんは、最後にロボットに期待することを述べて発表をまとめます。山川さんの話の進め方として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

#### 【県学力調査との関連】

- 平成29年度第1学年 2(2)正答率69.0%
- ・聞き手に伝えたい話題を伝えるための、話の構成の工夫をとらえること。

中学校国語

課題

- 文章の構成や展開について自分の考えをもつこと。  
【誤答例】 3 (17.0%)

課題となった問題

●B1二(本県60.1%, 全国64.3%, -4.2)

- 二 この文章では、複数の辞書から「天地無用」の意味が引用されていますが、その効果について説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までのなかから一つ選びなさい。
- 1 複数の辞書の記述を取り上げること、  
「天地無用」の本来の意味について納得できるようにしている。
  - 2 発行年の異なる辞書の記述を並べること、  
「天地無用」の本来の意味の移り変わりが分かるようにしている。
  - 3 複数の辞書の記述を比較すること、  
「天地無用」の本来の意味が複数あることに着目できるようにしている。
  - 4 一つの辞書の記述に別の辞書の記述を補うこと、  
「天地無用」の本来の意味のもととなった出来事が分かるようにしている。

指導のポイント

- 誤答について
    - ・ 複数の辞書の説明を引用した書き手の意図とその効果について理解できていない。
    - ・ 「『天地無用』は、『荷物の上下を逆にしてはいけない』という意味です。」という一文に着目することができていない。
  - 指導について
    - ・ 説明的な文章において、書き手は読み手の理解を促すために、文章の構成や展開を工夫したり、一つ一つの表現を工夫したりして書いている。それらの工夫や効果を具体的に考えるように指導する。
- 【例】
- ・ 同じテーマで書かれた複数の説明文を、比較しながら読む。
  - ・ 文章の構成や展開、表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について自分の考えをもつ。自分の考えを支える根拠となる段落や部分を挙げる。

# Ⅲ－１（４） 今後の指導に当たって

学力調査結果の分析から明らかになった中学校国語科の課題改善のため  
次の点に取り組みましょう。

## 課題が見られた内容

- 目的に応じて文の成分の順序や照応，構成を考えて適切な文を書くこと。
- 文章の構成や展開，表現の特徴について，自分の考えをもつこと。
- 登場人物の言動の意味を考え，内容の理解に役立てること。
- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み，内容を理解すること。

取組

## 授業の中で

- 指導事項を基に，付けたい力やその力を付ける目的などを明確にする。
- 生徒の実態に応じ，各領域の指導事項等を関連付けながら，系統的に指導する。
- まとめは，ノート等に蓄積していき，その後の「学習の手引き」として活用させる。

## 日々の取組の中で

- 授業内容に応じた家庭学習の課題を出し，その取組を確認する。
- 学習した語彙を各領域の授業や実際の言語活動で活用する。
- 国語科の学習が読書活動に結び付くように，図書館の活用や朝読書などに計画的に取り組む。

### Ⅲ－２ 中学校数学

- (1) 成果と課題
- (2) 成果が見られた問題
- (3) 課題が見られた問題の分析
- (4) 今後の指導に当たって

## 成果

## 中学校数学

## 課題

### 成果が見られた内容

- 多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解すること。  
【関連問題 A15(1)】  
本県45.8%, 全国40.2% 差+5.6
- 一次関数  $y=ax+b$  について、 $a$  と  $b$  の値とグラフの特徴を関連付けて理解すること。  
【関連問題 A11(2)】  
本県57.9%, 全国56.3% 差+1.6
- 多角形の内角の和の性質を理解すること。  
【関連問題 A6(2)】  
本県76.4%, 全国75.7% 差+0.7
- 与えられた情報を分類整理し、不確定な事の起こりやすさの傾向を捉えること。  
【関連問題 B1(2)】  
本県44.6%, 全国43.9% 差+0.7

### 課題が見られた内容

- 絶対値の意味を理解すること。  
【関連問題 A1(2)】  
本県62.0%, 全国69.0% 差-7.0
- 四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の1/3倍であることを理解すること。  
【関連問題 A5(4)】  
本県54.8%, 全国57.6% 差-2.8
- 座標平面上に点の位置を示すこと。  
【関連問題 A10】  
本県63.4%, 全国69.9% 差-6.5
- 事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明すること。  
【関連問題 B2(2)】  
本県32.1%, 全国37.5% 差-5.4

## 中学校数学

### 成果が見られた問題 1

○多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解すること。

●A15(1)(本県45.8%, 全国40.2%, +5.6)

表と裏の出方が同様に確からしい硬貨があります。この硬貨を投げる実験を他数回繰り返し、表の出る相対度数を調べます。

このとき、相対度数の変化の様子について、下のアからエまでの中から正しいものを選びなさい。

- ア 硬貨を投げる回数が増えるにつれて、表の出る相対度数のばらつきは小さくなり、その値は1に近づく。
- イ 硬貨を投げる回数が増えるにつれて、表の出る相対度数のばらつきは小さくなり、その値は0.5に近づく。
- ウ 硬貨を投げる回数が増えなくても、表の出る相対度数のばらつきはなく、その値は0.5で一定である。
- エ 硬貨を投げる回数が増えなくても、表の出る相対度数の値は大きくなったり小さくなったりして、一定の値には近づかない。

#### 【県学力調査との関連】

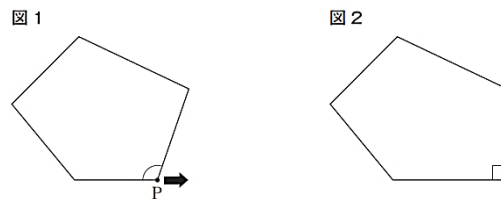
- 平成29年度第2学年課題克服プリント「確率(4)」
- ・確率の意味を理解すること。

### 成果が見られた問題 2

○多角形の内角の和の性質を理解すること。

●A6(2)(本県76.4%, 全国75.7%, +0.7)

図1の五角形の頂点Pを動かし、 $\angle P$ の大きさを $90^\circ$ に変えて、図2のような五角形にします。



このとき、五角形の内角の和はどうなりますか。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 五角形の内角の和は、図1より図2の方が小さくなる。
- イ 五角形の内角の和は、図1と図2で変わらない。
- ウ 五角形の内角の和は、図1より図2の方が大きくなる。
- エ 五角形の内角の和がどうなるかは、問題の条件だけでは決まらない。

#### 【県学力調査との関連】

- 平成29年度第2学年 3(1) 正答率85.7%
- ・五角形の内角の和の求める方法について、与えられた図から読み取ること。

## 中学校数学

### 課題

○ 四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $1/3$ 倍であることを理解すること。

### 課題となった問題

● A5(4) (本県54.8%, 全国57.6%, -2.8)

次の図1は四角錐で、図2は四角柱です。それぞれの立体の底面の四角形は合同で、高さは等しいことがわかっています。このとき、図1の四角錐の体積は、図2の四角柱の体積の何倍ですか。下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

図1

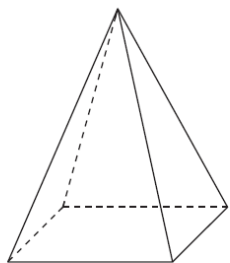
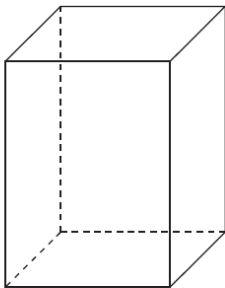


図2

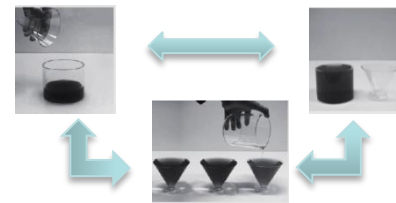


ア  $\frac{1}{4}$  倍    イ  $\frac{1}{3}$  倍    ウ  $\frac{1}{2}$  倍    エ  $\frac{2}{3}$  倍    オ  $\frac{3}{4}$  倍

- 【誤答例】
- ア( $1/4$ 倍)と解答している。(5.1%)
  - ウ( $1/2$ 倍)と解答している。(20.8%)
  - エ( $2/3$ 倍)と解答している。(13.1%)
  - オ( $3/4$ 倍)と解答している。(5.8%)

### 指導のポイント

- 誤答について
  - ・柱体の体積と錐体の体積の関係の理解が十分でなく、四角柱の体積と四角錐の体積の関係を2倍と捉えている生徒がいる。
- 指導について
  - ・柱体の体積と錐体の体積の関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、模型を用いた実験による測定を行って確かめる場面を設定する。
  - ・体積の比が2:1や3:1になるなどの予想を取り上げ、その予想が正しいかどうかを、実験を通して確かめる活動を取り入れる。



※柱体の体積と錐体の体積の比が3:1であることから、錐体の体積の3倍が柱体の体積、柱体の体積の $1/3$ 倍が錐体の体積になることの理解を深められるようにすることが大切である。



# Ⅲ－２（４） 今後の指導に当たって

学力調査結果の分析から明らかになった数学科の課題改善のため  
次の点に取り組みましょう。

## 課題となった内容

- 絶対値の意味を理解すること。
- 四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $1/3$ 倍であることを理解すること。
- 座標平面上に点の位置を示すこと。
- 事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明すること。

## 取組

## 授業の中で

- 「何を学ぶのか」が分かる「めあて」を提示する。
- 言葉や式、図、表、グラフを用いて表現（説明・記述）する活動を位置付ける。
- 「何を学んだのか」が分かる「まとめ」を提示する。

## 日々の取組の中で

- 授業内容に応じた課題を家庭学習で出し、その取組を確認する。
- 概念や性質の理解に裏付けられた確かな知識及び技能を確実に身に付けるため、適切に、繰り返し学習する機会を設ける。
- ※小学校算数科で学習した内容等についても、生徒の実態に応じた学び直しの機会を設定する。



## Ⅲ－３ 中学校理科

- (1) 成果と課題
- (2) 成果が見られた問題
- (3) 課題が見られた問題の分析
- (4) 今後の指導に当たって

## 成 果

## 中学校理科

## 課 題

### 成果が見られた内容

○濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できること。

【関連問題 2(2)】(主として「知識」に関する問題)

本県49.2%, 全国46.9% 差+2.3

○1つの要因(変える条件)を変えるとその他にも変わる可能性のある要因(変わってしまう条件)を指摘することができること。

【関連問題 2(4)】(主として「活用」に関する問題)

本県63.2%, 全国61.3% 差+1.9

○神経系の働きについての知識を身に付けていること。

【関連問題 5(1)】(主として「知識」に関する問題)

本県60.5%, 全国57.2% 差+3.3

### 課題が見られた内容

○地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けていること。

【関連問題 7(1)】(主として「知識」に関する問題)

本県49.9%, 全国55.1% 差-5.2

○緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れ(主要動)が始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘できること。

【関連問題 7(2)】(主として「活用」に関する問題)

本県76.4%, 全国78.5% 差-2.1

○観察・実験の結果のグラフを分析して解釈し、アルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できること。

【関連問題 8(2)】(主として「活用」に関する問題)

本県70.4%, 全国72.0% 差-1.6

## 中学校理科

### 成果が見られた問題 1

○濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できること。

●2(2)(本県49.2%, 全国46.9% 差+2.3)

3%の食塩水をつくる場面



食塩水の質量パーセント濃度が3.0%のものを、上のA、Bの中から1つ選びなさい。

#### 【県学力調査との関連】

平成29年度第1学年2(1)正答率42.1%

・水溶液の濃さを、質量パーセント濃度で表す方法を理解し、計算方法を身に付けていること。

### 成果が見られた問題 2

○1つの要因（変える条件）を変えるとその他にも変わる可能性のある要因（変わってしまう条件）を指摘することができること。

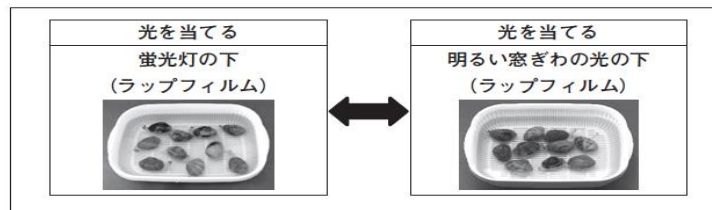
●2(4)(本県63.2%, 全国61.3%, +1.9)

#### 【新たな課題】

蛍光灯の下よりももっと明るい場所では、アサリが出す砂の質量は少なくなるのだろうか。

#### 【新たな実験】

蛍光灯の下でアサリが出す砂の質量と、明るい窓ぎわの光の下でアサリが出す砂の質量を比較する。



【新たな実験】で、もっと明るい場所に置くことによって明るさ以外にも変わってしまう条件があると考えました。変わってしまう条件として考えられるものを1つ書きなさい。

#### 【県学力調査との関連】

○平成29年度第2学年 3(5) 正答率31.7%

・一定の質量の物質に反応する他の物質の質量には限度があることを読み取り、実験方法での条件の組み合わせを選ぶことができること。

## 中学校理科

### 課題

- 地震の揺れの強さが震度であること，S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けていること。

### 課題となった問題

- 7(1)(本県49.9%，全国55.1% 差－5.2)

「緊急地震速報による避難訓練」の後，理科の授業で地震の学習を行い，科学的に探究しました。

- (1) 地震の揺れの強さのことを何といいますか。また，S波による揺れを何といいますか。

地震の揺れの強さ	ア	マグニチュード	イ	震度
S波による揺れ	ア	初期微動	イ	主要動

#### 【誤答例】

- ・ア，アと解答している( 6. 6%)
  - ・ア，イと解答している(20. 0%)
  - ・イ，アと解答している(23. 0%)
- 正答(イ，イ)49. 9%

### 指導のポイント

- 誤答について
  - ・地震の揺れの強さが震度であることと，S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けることに課題があり指導の充実が求められる。
- 指導について
  - ・過去の地震の記録を基に観測地点における揺れの様子を探究し，震度とマグニチュード，初期微動と主要動など地震に関する知識を身に付ける学習場面を設定する。
  - ・身に付けた地震に関する知識が活用されている例として緊急地震速報を取り上げ，その仕組みについて調べたり発表したりすることを通して，理科を学ぶ意義や有用性を実感できるようにする。

# Ⅲ－３（４） 今後の指導に当たって

学力調査結果の分析から明らかになった理科の課題改善のため  
次の点に取り組みましょう。

## 課題となった内容

- 地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けていること。
- S波による揺れ（主要動）が始まるまでの時間が最も長いと考えられる観測地点を指摘できること。
- 観察・実験の結果のグラフを分析して解釈し、アルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できること。

取組

## 授業の中で

- 学習意欲を高めるため、自然の事物・現象から問題を見いださせ、解決可能な課題を設定できるようにする。
- 学習内容に関連した自然の事物・現象や科学技術などを考えたり、説明したりする学習活動を単元を見通して、単元のはじめや終わりに位置付け、課題を設定したり、理解を深めたりするようにする。

## 日々の取組の中で

- 自然に直接触れさせることにより、自然の偉大さを感じ取らせ、自然に対する興味・関心を高めるようにする。
- 理科で学習した様々な原理や法則は、日常生活や社会と深く関わっていることを認識できるようにする。

# IV 質問紙調査結果

**IV－1 児童・生徒質問紙調査結果①②**

**IV－2 これまでの調査結果の分析**

**IV－3 改善に向けて**

# IV-1 児童・生徒質問紙調査結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
主体的・対話的で深い学びの視点から	1.5年生(中学2年生)までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	76.3	76.7	-0.4	70.5	73.8	-3.3
	2.5年生(中学2年生)までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	59.0	61.0	-2.0	46.2	53.8	-7.6
	3.学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	77.3	77.7	-0.4	75.7	76.3	-0.6
規範意識・自己有用感等	4.自分には、よいところがあると思いますか	84.1	84.0	0.1	78.1	78.8	-0.7
	5.先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	85.3	85.3	0.0	80.6	82.2	-1.6
	6.将来の夢や目標を持っていますか	85.0	85.1	-0.1	72.4	72.4	0.0
	7.学校のきまりを守っていますか	90.3	89.5	0.8	94.8	95.1	-0.3
	8.いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.8	96.8	0.0	96.4	95.5	0.9
	9.人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.1	95.2	-0.1	96.1	94.9	1.2



# IV-1 児童・生徒質問紙調査結果②

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

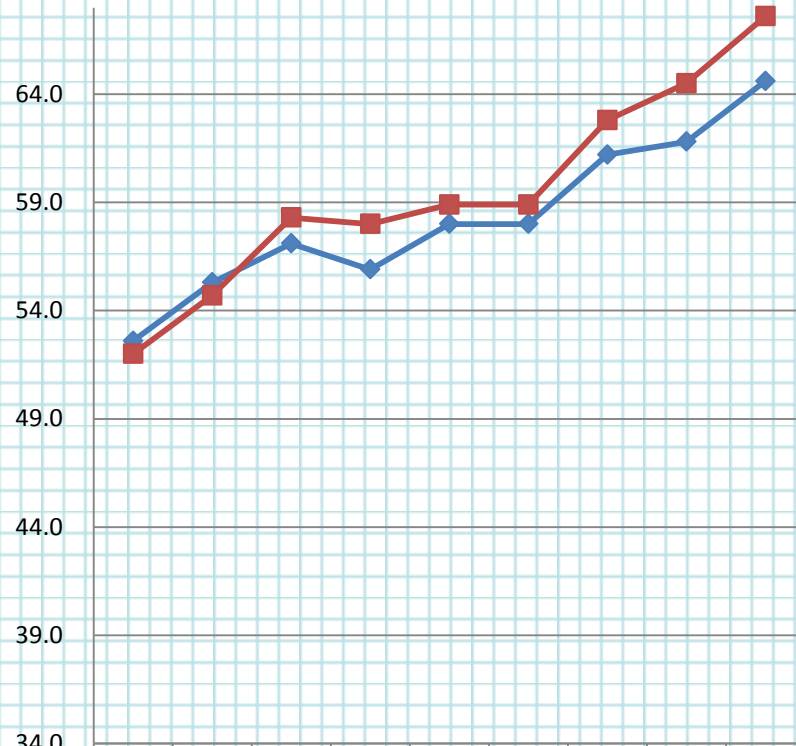
	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
学習習慣等	10.家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	64.6	67.6	-3.0	47.7	52.1	-4.4
	11.家で、学校の宿題をしていますか	96.4	97.1	-0.7	90.7	91.6	-0.9
	12.家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	61.9	62.6	-0.7	50.4	55.2	-4.8
	13.家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	73.2	69.9	3.3	69.7	71.3	-1.6
生活習慣等	14.毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	76.5	77.0	-0.5	73.6	74.2	-0.6
	15.家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	78.6	80.5	-1.9	76.8	76.0	0.8
地域や社会	16.今住んでいる地域の行事に参加していますか	66.0	62.7	3.3	40.7	45.6	-4.9
	17.地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	50.0	49.9	0.1	36.1	38.7	-2.6
	18.地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	40.1	41.6	-1.5	23.0	25.5	-2.5



# IV-2 これまでの調査結果の分析

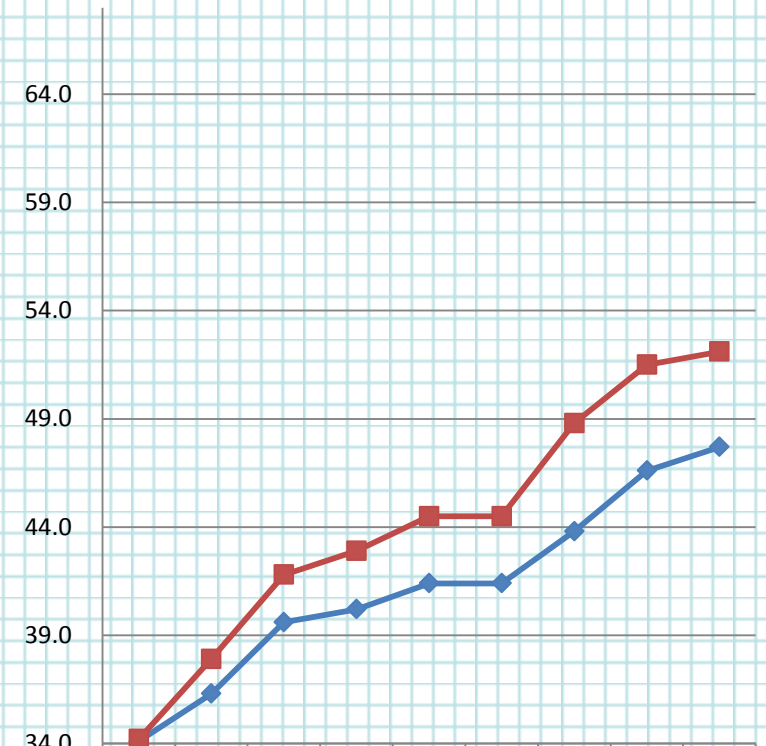
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

している+どちらかといえばしている



小(熊本県)	52.6	55.3	57.1	55.9	58.0	58.0	61.2	61.8	64.6
小(全国)	52.0	54.7	58.3	58.0	58.9	58.9	62.8	64.5	67.6

小学校 (児童質問紙調査)



中(熊本県)	34.1	36.3	39.6	40.2	41.4	41.4	43.8	46.6	47.7
中(全国)	34.2	37.9	41.8	42.9	44.5	44.5	48.8	51.5	52.1

中学校 (生徒質問紙調査)

### 児童・生徒質問紙調査から

- 話し合う場面や自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく相手に伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表を行うよう働きかけましょう。
- これまでにも、学校の授業の復習を中心として、家庭学習に取り組んでいます。今後は、「家で計画を立てて勉強する」「学校の授業の予習をする」ことなど、発達段階に応じた主体的な学びに向かう働きかけをしましょう。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」といった自己有用感を高めるため、すべての教育活動において、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標を踏まえた教育の実現を目指しましょう。
- 地域人材を積極的に活用して、地域に開かれた教育課程の実現を目指しましょう。

# IV 質問紙調査結果

**IV - 4 学校質問紙調査結果①②**

**IV - 5 調査結果の分析①②**

**IV - 6 改善に向けて**

# IV-4 学校質問紙調査結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質問項目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
主 体的 ・ 対 話 的 で 深 い 学 び の 視 点 か ら の 授 業 改 善 に 関 する 取 組 状 況	1. 調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか（新規）	88.1	83.6	4.5	75.4	80.8	-5.4
	2. 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	97.4	93.0	4.4	95.8	92.6	3.2
	3. 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／算数・数学共通）	87.8	84.4	3.4	68.6	73.7	-5.1
メ カ リ キ ュ ラ ム ・ マ ネ ジ に 関 する 取 組 状 況	4. 児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	97.1	94.9	2.2	94.6	93.1	1.5
	5. 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	97.4	94.4	3.0	96.3	91.8	4.5
	6. 学校として業務改善に取り組んでいますか（新規）	98.5	97.4	1.1	97.6	96.8	0.8
資 質 能 力 の 向 上	7. 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	99.4	96.7	2.7	93.3	90.9	2.4
	8. 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	97.6	95.1	2.5	87.3	85.4	1.9
個 に 応 じ た 指 導	9. 調査対象学年の児童（生徒）に対して、算数・数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか（年間の授業のうちおおよそ3/4以上で行った、おおよそ1/2以上3/4未満で行った）	42.3	35.2	7.1	42.2	28.6	13.6

# IV-4 学校質問紙調査結果②

数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

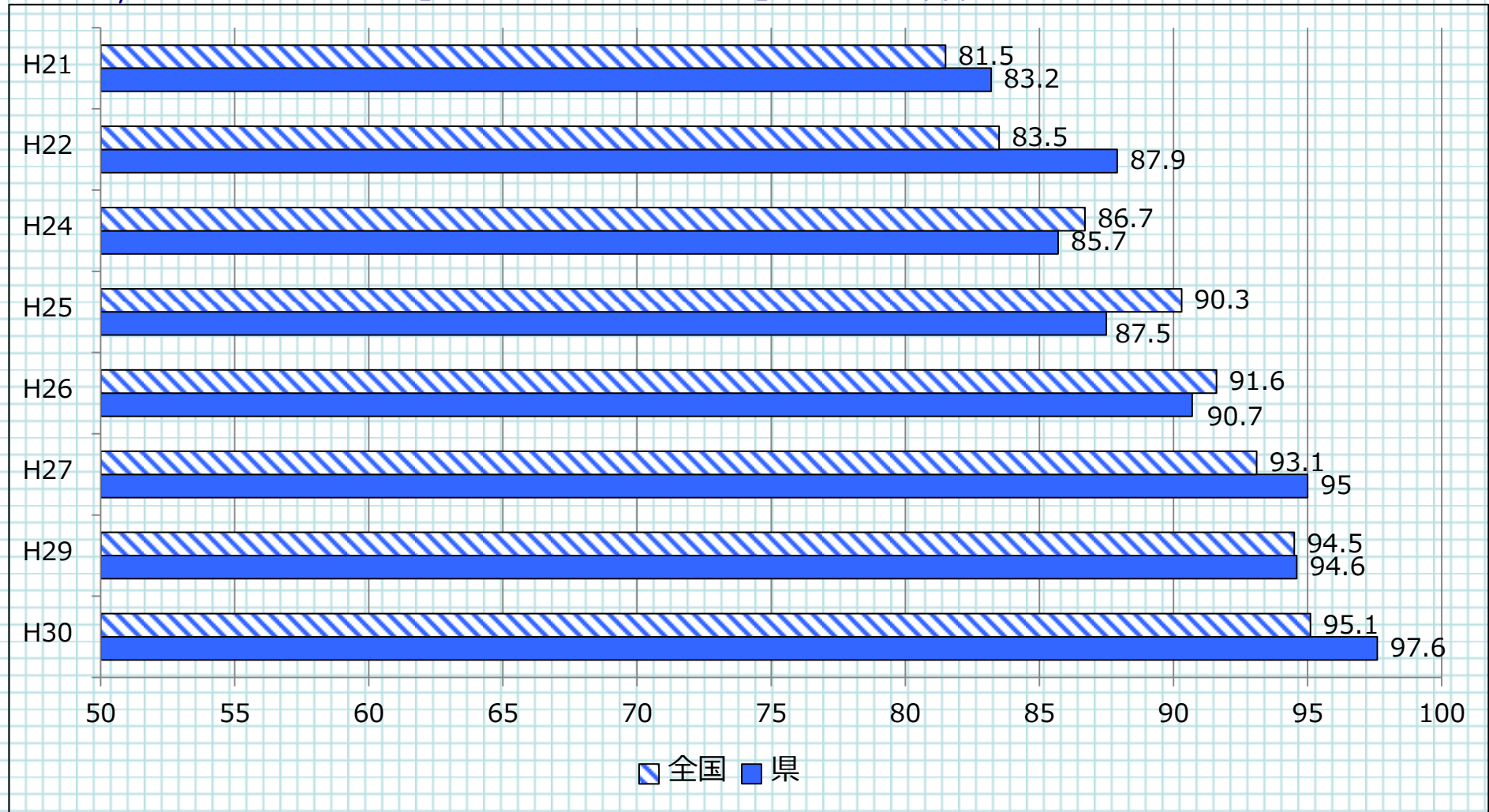
	質問項目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
自己規範意識、有用感	10. 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか	100	99.0	1.0	98.8	97.9	0.9
家庭学習	11. 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(国語/算数・数学共通)	91.5	91.6	-0.1	90.4	87.1	3.3
組合せ地域や社会に関する学習活動の取組	12. 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか	87.8	86.2	1.6	83.7	79.8	3.9
家庭や地域との連携	13. 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか(新規)	90.3	90.6	-0.3	84.3	85.2	-0.9
	14. 保護者や地域の人や学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	99.5	97.7	1.8	94.6	90.4	4.2
	15. 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	80.2	72.8	7.4	69.9	60.7	9.2
	16. 保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	97.7	95.4	2.3	90.3	88.6	1.7
調査等全国学力・学習状況の活用	17. 平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	98.9	97.6	1.3	95.8	96.1	-0.3
	18. 平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	91.9	92.3	-0.4	82.5	88.5	-6.0

# IV-5 調査結果の分析①-1

【小学校】「校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか」

数値は、選択肢「ほぼ毎日」「週に2～3回程度」の肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

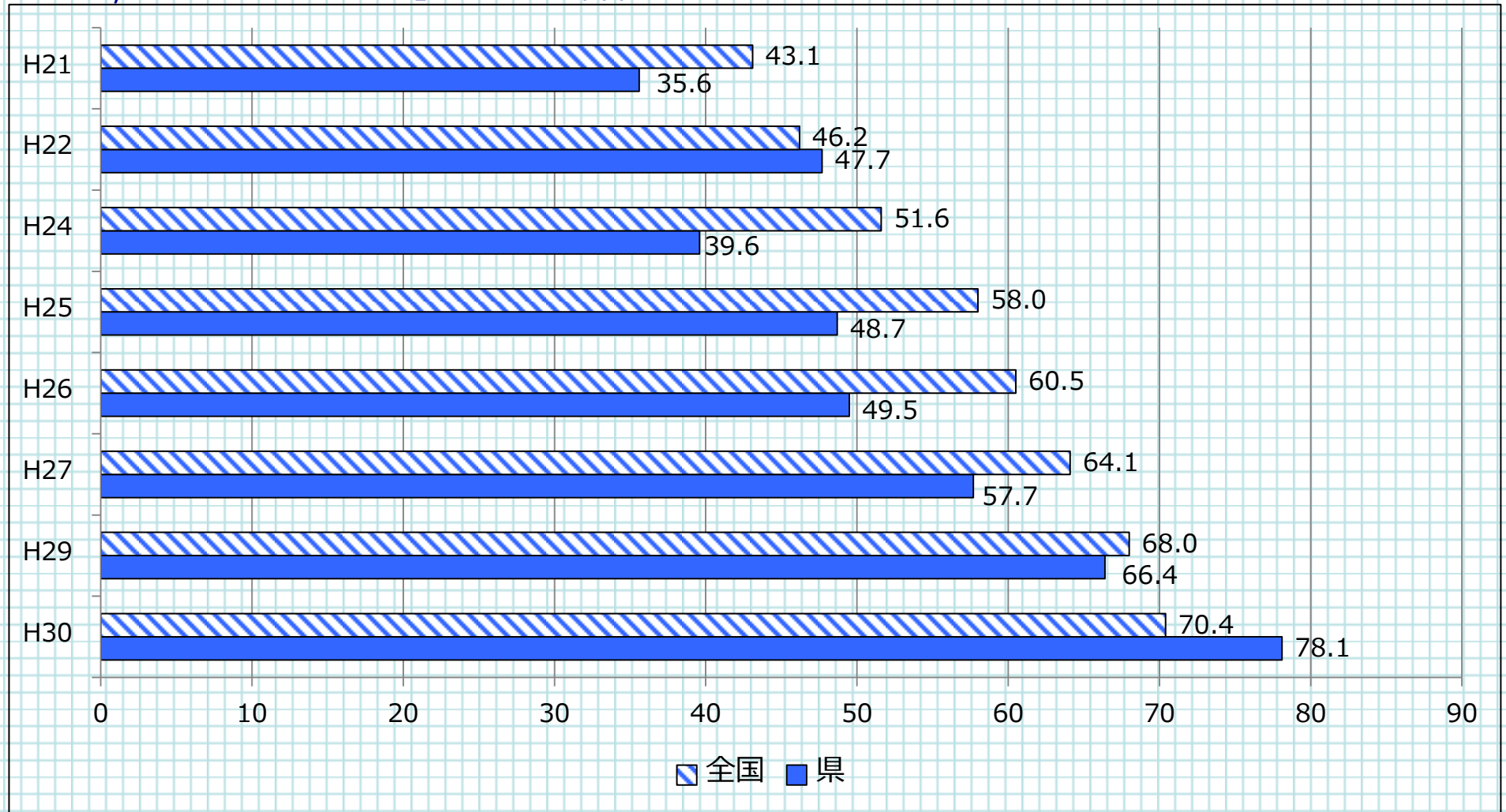


# IV-5 調査結果の分析①-2

【小学校】「校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか」

数値は、選択肢「ほぼ毎日」の肯定的評価の合計を示す。

単位(%)



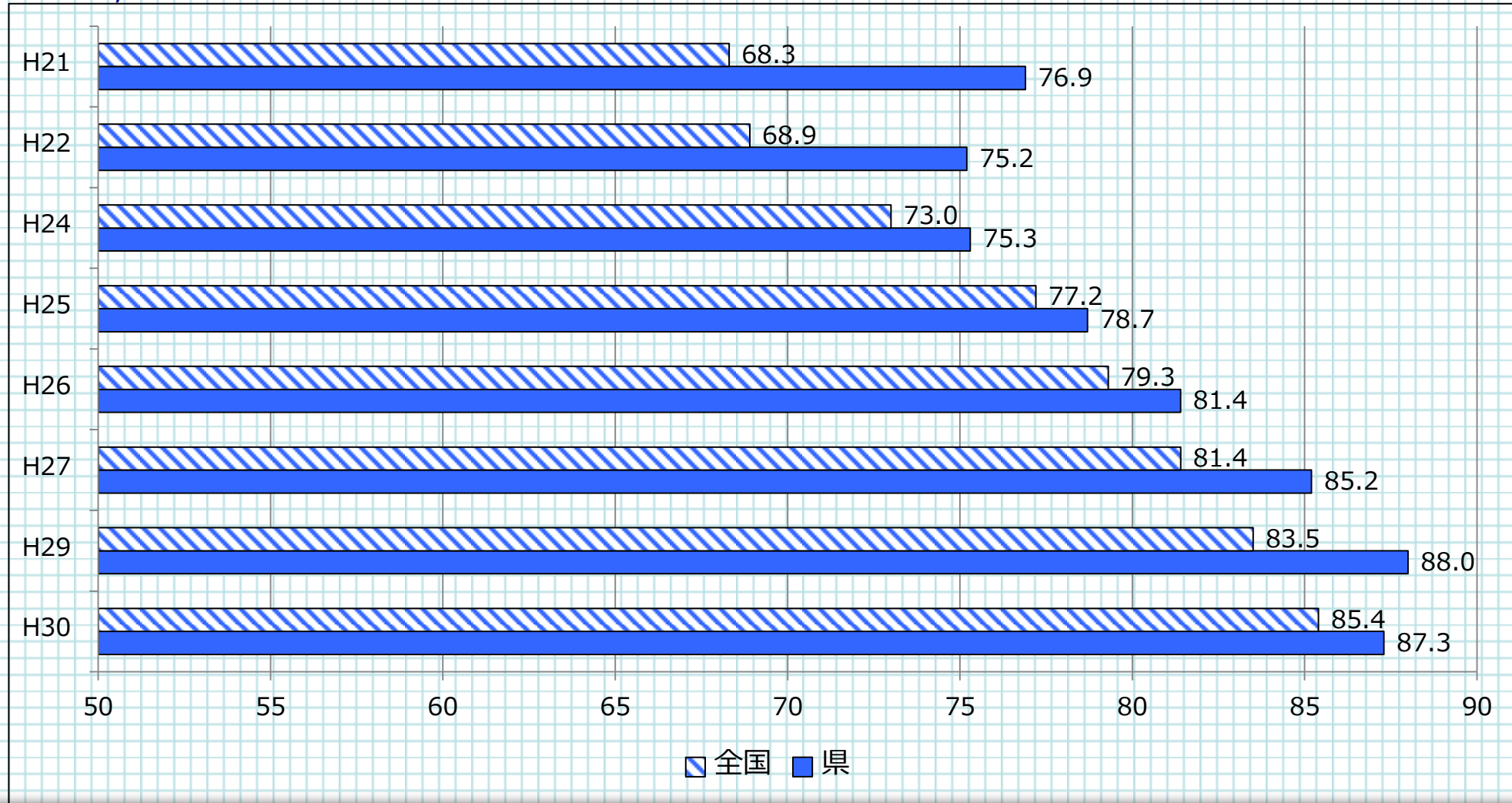


# IV-5 調査結果の分析②-1

【中学校】「校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか」

数値は、選択肢「ほぼ毎日」「週に2～3回程度」の肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

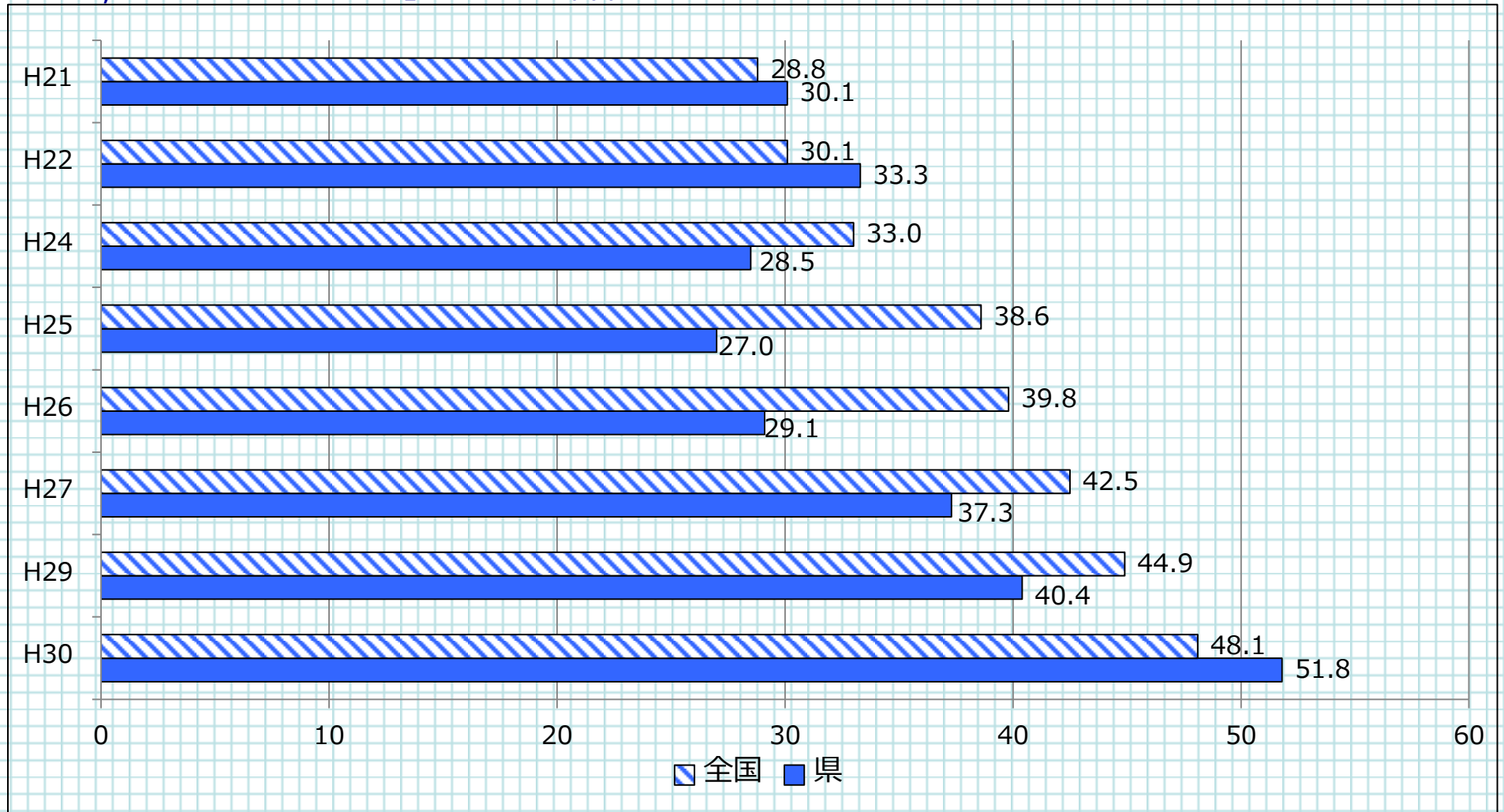


# IV-5 調査結果の分析②-2

【中学校】「校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか」

数値は、選択肢「ほぼ毎日」の肯定的評価の合計を示す。

単位(%)



## 学校質問紙から

- 1 調査結果を学校全体で教育活動の改善に活用している学校が増え、学校総体とした取組が進んでいます。今後も調査結果を効果的に活用し、学力向上の取組の一層の充実を図りましょう。
- 2 調査結果について、保護者や地域の人たちに対して説明したり、自校の教育目標や教育課程の趣旨について家庭・地域と共有化を図ったりするなどを通して、「社会に開かれた教育課程」を実現しましょう。
- 3 児童（生徒）の姿や地域の現状等に基づいた教育課程のPDCAサイクルの確立が向上しています。今後も組織的かつ計画的に取組状況について分析・見直し等を行い、資質・能力の育成に向けて具体的な取組を行いましょ。
- 4 授業では、児童（生徒）が課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組むことが大切です。導入の工夫や振り返りの工夫、また、県学力調査の問題等を活用するなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図りましょう。
- 5 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ることについては、改善が見られます。今後も教職員で共通理解を図るとともに、児童（生徒）が調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えるなど、宿題の内容についても工夫をしましょう。
- 6 校内の授業を「ほぼ毎日」見て回っている校長が増えています。今後、授業の見回りはもとより、授業後に授業者に対してコメントを返したり、必要に応じて指導助言等を行ったりしましょう。

# V 県教育委員会の取組

## 全小中学校を対象に、 研修会を実施します

- 熊本の教育推進会議：校長対象  
県全体の課題や、学力向上に向けた好事例をもとに、学校総体とした取組について協議

## 授業改善に向けた具体的な 方策を提案します

- 「教科等指導の重点」等の本課作成資料の積極的な活用

## 県学力調査を実施します

- 課題の改善状況の調査（12月上旬）
- 課題克服に向けた補充問題の提供（10月中旬，1月下旬）
- 学力向上検証改善サイクルによる学校総体とした取組の推進

- 「熊本の学び」総合構想会議及びWGによる具体的方策の提案

児童生徒の学力向上のために

## 学力向上支援訪問を 実施します

- 全国学力・学習状況調査や県学力調査の結果（質問紙調査を含む）から見られる課題についての講話、演習等
- 新学習指導要領の趣旨，内容を踏まえた講話，演習等  
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の在り方等
- 学力向上に向けた取組事例の紹介  
補充問題の活用・家庭学習の在り方等
- 授業改善に繋がる好事例の授業の紹介  
見通し，振り返り，主体的・対話的で深い学びの視点

## 補充学習を支援します

- 全国学力・学習状況調査過去問題（単元別・領域別）及び県学力調査過去問題の県教育委員会ホームページによる提供

「熊本の学び」

- 県内の好事例の収集  
授業改善、カリキュラム・マネジメント等